

平成26年度研究協議会資料

都道府県・ 指定都市番号	49	都道府県・ 指定都市名	仙台市	研究課題番号・校種 名	3(1) 小学校
				領域名	伝統文化教育
研究課題	新学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究 (1) 学校全体としての各教科等の連携による体系的な伝統文化に関する教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名 (児童生徒数)	せんだいしりつさいわいちようしょうがっこう 仙台市立 幸 町 小学校 (294人)				
所在地 (電話番号)	仙台市宮城野区幸町 2-19-1 (022-291-8392)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.sendai-c.ed.jp/~saiwai				
研究のキーワード	日常生活との関連 お茶 総合的な学習の時間 地域連携				
研究成果のポイント	① 身近な題材として選んだ「お茶」は、日常生活との関連が深く、児童の興味関心を喚起し、実体験を伴った探究的な学習として展開することができるものであった。 ② 外部講師（学校支援地域本部）の活用を図り、地域の方々との交流を通して、地域に愛着をもち、その発展を願い、それに寄与しようとする態度を育成することができた。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

我が国の伝統文化への関わりを日常生活から意識させる学習指導の工夫

(2) 研究主題設定の理由

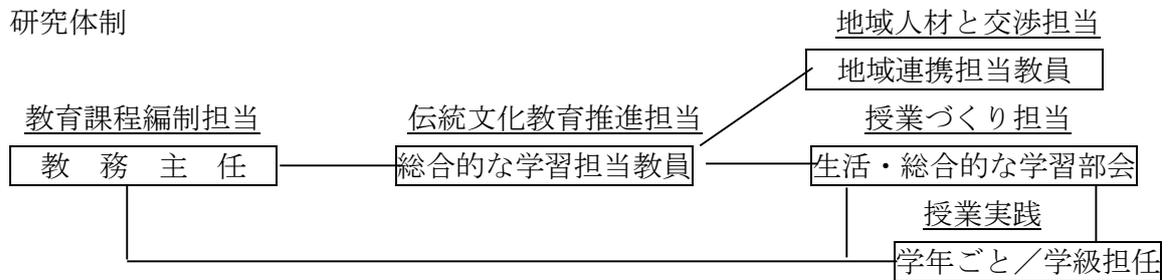
本校は昭和46年に開校した当時、学校周辺に水田が広がっており、昔から「二の森」校区には茶畑が広がっていた。しかし、現在は、開発が進み水田や畑は残っておらず、大型店舗が並ぶ商業地や住宅地となっている。また、古くから伝承されている「祭り」や「お囃子」「神楽」「神社・仏閣」といった伝統や文化が存在しない地域でもある。

昨年、6学年の児童は、茶畑があった当時を知る地域住民からお話を聞く機会があった。そこから地域の歴史についての関心が高まり、児童の実態とこれまでの取組を考慮し、「お茶」を題材として「伝統文化教育」を実践することで、以下のことが成果として期待できると考え、本主題を設定した。

- 外部講師（学校支援地域本部）の活用を図り、地域の方々との交流を通して、地域の歴史を学び、郷土を愛し、その発展を願い、それに寄与しようとする態度を育成することができる。

- ・ 過去から現在，そして未来を創造するとともに，地域から日本，そして世界へと視野を拡大することができる。
- ・ 学校全体で，総合的な学習の時間を核として，各教科等の連携により教育課程の編成をし，相互の関連を図ることで効果的な学習を行うことができる。
- ・ 日常生活との関連が深く，児童の興味関心を喚起し，実体験を伴った探究的な学習を展開することができる。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組

平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統文化教育の題材を選ぶ。 ・ 各教科等の年間指導計画の中から，「お茶」と関連できる指導内容を抽出し，年間指導計画を作成する。 ・ 児童の実態を調査し，その整理・分析をする。 ・ 各教科等での授業実践をする。(9月上旬「5学年・総合的な学習の時間」の授業公開) ・ 今年度の研究の振り返りから平成27年度の研究内容を明確にし，新年度当初から実践できるように準備する。
--------	---

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

ア 体系的な伝統文化に関する教育課程の編成

- ・ 生活とお茶との関わりについて学習する。(生活・社会・家庭・総合)
- ・ お茶の栽培，収穫，加工，流通，消費について学習する。(生活・社会・理科・総合)
- ・ お茶を入れ，ふるまって地域との結びつきを強める。(特別活動・生活・総合)
- ・ 茶道を体験し，学年に応じて茶碗を製作したり，抹茶を点てたりすることができるようにする。
(図画工作・特別活動・生活・社会・総合)

イ 指導方法の工夫改善に関する実践

- ・ 地域連携担当が中心となり地域の人材発掘と学校支援地域本部，市民センター等との連携
- ・ 茶栽培農家への見学を通じた教員研修の充実

(2) 具体的な研究活動

○主な実践

① 5年・総合的な学習の時間「幸ブランドのお茶でおもてなし」

「お茶の味はみな同じか。」という問いを基に、児童がお茶調べの探究活動を行う授業

<課題把握・課題設定>

- ・ 「お茶」飲料のテレビコマーシャルを視聴して、各社のアピール内容を比較した。
- ・ 各社のお茶を試飲し、味、香り、濃さの違いを比較した。
- ・ 相互の課題を検討し合った。
- ・ 県内唯一の茶栽培農家を見学し、お茶の育て方や生産者の苦労について知った。
- ・ 茶葉を煎茶にする活動を行い、生産活動の実際を経験した。

<情報収集・調べ学習>

- ・ お茶の販売企業に出前授業をしてもらい、お茶のおいしい入れ方や楽しみ方を学んだ。
- ・ 茶道の先生から、茶道の成り立ちや作法、茶筌の振り方を学んだ。

<整理・分析>

- ・ 経験したことを基に、自分の課題を再考した。

<まとめ・表現>

- ・ まとめた内容で中間発表会を行った。
- ・ 茶道の作法を体験し、新たなお茶の世界を知るとともに、もてなしの心を学んだ。
- ・ 茶器の使い方を知り、茶碗を製作した。
- ・ 茶道の作法から、抹茶を点てる経験をして、自分で点てたお茶で地域の人をもてなした。
- ・ 「お茶」の学習を振り返り、下の学年に伝えるための発表会を計画し、実行した。

② 5年・家庭 「家族とほっとタイム」

- ・ お茶を入れた実践を生かして、家族との団らんや地域の人々と触れ合う時間を楽しく過ごす工夫をした。

③ 5年・図画工作「粘土に自分の気持ちを込めて」

- ・ おもてなしの気持ちを込めながら粘土で茶碗を製作した。

④ 2年・生活科 「ありがとうの会をしよう」

サツマイモ掘りで、お世話になった地域の方にお茶といもだんごでもてなす授業

- ・ 出前授業で、おいしいお茶の入れ方を学んだ。
- ・ 育てたお茶の木から葉を摘み、蒸した葉を揉んで緑茶を作り、自分で急須からついで飲んだ。
- ・ 「ありがとうの会」では地域の方を招き、お茶といもだんごとでもてなした。
- ・ 茶道の先生から、茶道作法や、茶筌の振り方を学んだ。

⑤ 1年・生活 「そだてたお茶をのんでみたいな」

学級で栽培していたお茶の木から摘んだ葉っぱで緑茶を作って飲む体験の授業

- ・ 「お茶」飲料で飲み比べをして、味の違いに気付いた。
- ・ お茶の木の周りに自分の願いを書いたカードを差した。
- ・ お茶の木から摘んだ葉と製品のお茶の香りを比べて違いをみつけた。
- ・ 揉んだお茶を乾燥して、緑茶にして飲んだ。

- ⑥ 1年・算数「体積の直接比較」
- ・ お茶の入ったペットボトルで量の違いを調べた。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- ① 外部講師（学校支援地域本部）の活用を図り、地域の方々との交流ができたこと
- 地域に愛着をもち、その発展を願い、それに寄与しようとする態度を育成するためには、地域の方々と交流し、本物に触れる体験やその方々の思いを感じることができた。
- ② 「お茶」が伝統文化教育の題材として有効だったこと
- 「お茶」は、身近で日常生活との関連が深く、児童の興味関心を喚起し、実体験を伴った探究的な学習を展開することができる教材であった。
- 授業が進むにつれて、「お茶の勉強が楽しい」「もっとお茶のことを知りたい」と発言する児童が増えた。中には自主的に「お茶」について調べてきたり、家庭で父母や祖父母等と「お茶」の話題で会話したりする児童もいた。
- ③ 総合的な学習の時間を核として、各教科等で連携できたこと
- 各教科等の関連を図ることで、より効果的な学習を行うことができた。
- ④ 職員同士が自然と学ぶ機会を得たこと
- 職員研修として茶栽培農家を見学し、教員同士で学び合い、授業を構想することができた。

(2) 課題

- ① 「お茶」と「伝統文化」の関わりの明確化
- 児童が「お茶」を通して学んだ内容が、日本の伝統文化を学んでいると自覚できるように、「お茶」と「伝統文化」を意図的に結びつけて指導する工夫が必要である。そのためには、「総合的な学習の時間」の目標の達成に向けた取組の中に、「伝統文化教育」の視点を明示した教育課程上の位置付けを工夫していく必要がある。
- ② 年間指導計画の再検討
- 「伝統文化教育」をより推進していく視点として、再度、全学年の各教科等の年間指導計画の中から指導内容を抽出し、計画的、系統的に実施するよう工夫していく必要がある。
- 例えば、低学年は「お茶」について生活と結びつけて「飲むこと」を、中学年は種類や歴史について「調べること」を、高学年は社会との関連や外国と比較して「考察すること」を積み重ねていくことで、学習を発展させていくことができると考えた。児童の発達段階と教科の特性を十分考慮して検討していきたい。

(3) 研究2年目へ向けての取組

- ・ 新年度すぐに全学年で取り組むことができるように、今年度中に教育課程の編成と教材等の準備をする。
- ・ 各教科等の年間指導計画の中から指導内容を抽出し、計画的、系統的に実施する。